

団体名：道の駅どうし

代表者：設置者道志村長 大田昌博

所在地：山梨県南都留郡道志村

〔ポイント〕

平成11年4月5日「道の駅どうし」をオープンし、同年9月6日農産物生産出荷組合を設立。現在、組合員数は、村内5地区66名。エコファーマーア認定者13名。

地産地消を活かした産地づくりや遊休農地の解消に取り組む。当初は、生産規模が小さく、市場出荷品目がクレソンしかなかったが、道の駅の設置により、村内の農林産物、花き類、加工品を直売することを目的とした生産出荷組合ができ、所得向上により生産意欲が高まり、遊休農地の活用へとつながっている。道の駅内に設置されたとうふ屋で利用する大豆の生産もはじまり、地産地消による産地づくりが実現している。

【活動内容】

活動の理念

「豊かな自然や固有の文化、産業を生かした観光と交流による新たな地域活性化」

- 1．地産地消を活かした産地づくりや遊休農地の解消
- 2．体験農業や観光農園、市民農園の推進等による生産者と消費者の交流活動の実施。
特に横浜市とは、道志村が水源となっている関係もあり、道の駅を中心に村ぐるみで交流を行っている。
- 3．地域の直売所、加工施設等における地場農産物の利用促進
新品目導入や栽培講習会を実施。漬物等の加工品の販売。等々
- 4．観光施設、地域内レストラン等への地場農産物の利用促進
食材提供施設においてクレソンうどん、クレソンジュース等、新たにオープンしたとうふ屋でクレソンとうふを発売。
- 5．地産地消の情報提供
道の駅の年間利用者80万人に施設案内所、イベント（やまめ祭りやもろこし祭り、もちつき大会等年間8回開催）を通じてイベントを開催を通じての農産物や特産品、観光等に関する情報を提供。